

少年少女世界名作全集

孫 悟 空

原作・吳承恩

鶴見 正夫



主婦の友社版

少年少女世界名作全集 36

孫悟空

	鶴 見 正 夫
	孫悟空 主婦の友社 昭和52年(1977) 162p 22cm 〔分類〕 909

筆 者 鶴見正夫

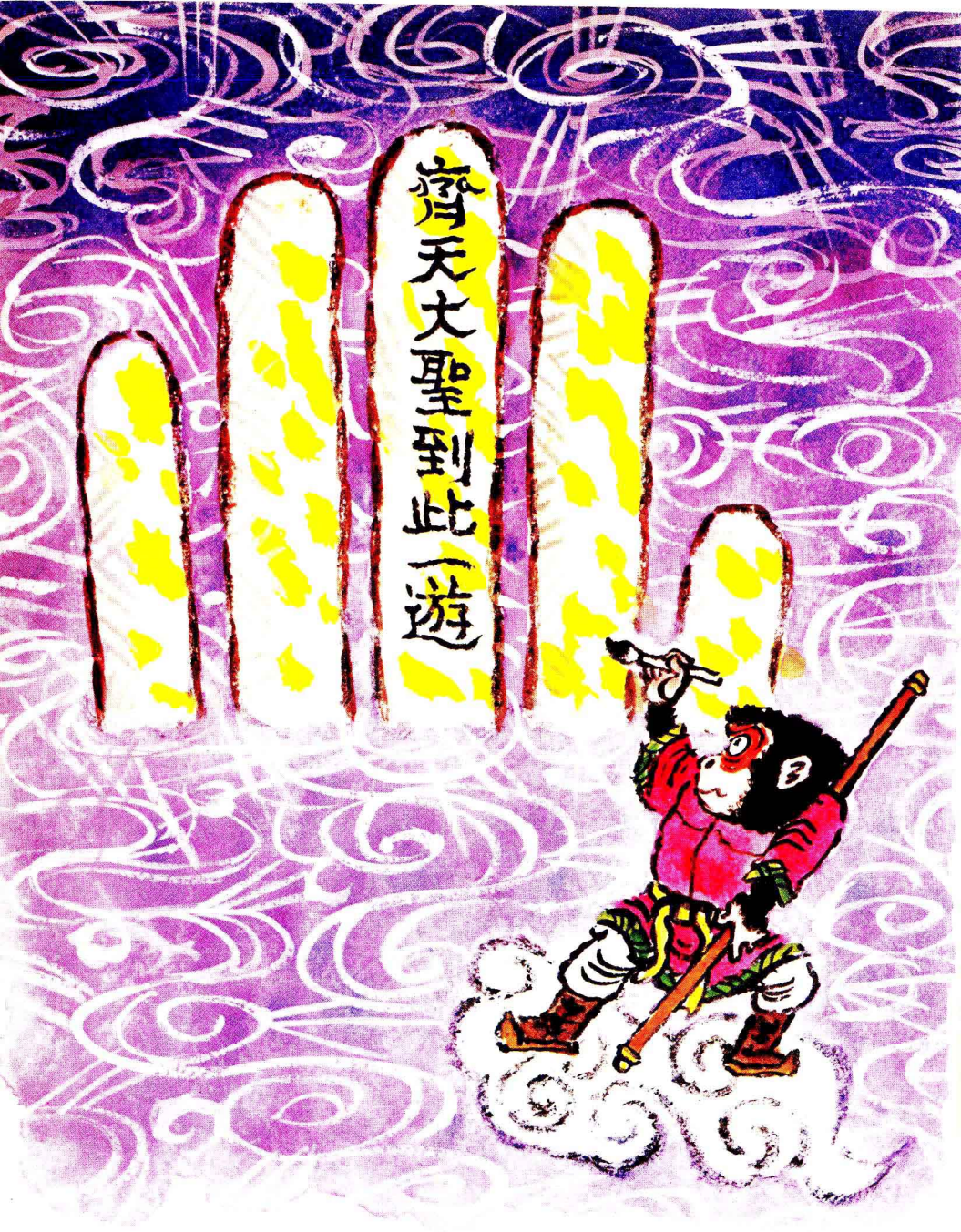
発 行 者 石川 数雄

印刷・製本 凸版印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。

発 行 所 株式会社 主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台1-6
郵便番号 101 振替 東京2-180番
電話 東京(03)294-1111(大代表)



齊天大聖到此一遊

きんと雲^{うん}に 乗^のった ごくうは 風^{かぜ}より はやく と
んで いきました。そして そびえ立^たつ 柱^{はしら}に、『せい
てんたいせい、ここに くる』と 書^かきつけました





かねのわを 頭につけられた ごくうは、川の中から
あらわれて さんぞうほうしに おそいかかった り
ゆうに、にいぼうを ふるって とびかかりました。



ひとく 金の 大王の からだは、ごくうの 持っ
ている まほうの ひょうたんの^{なか}へ ひゅーんと
すいこまれてしまいました。

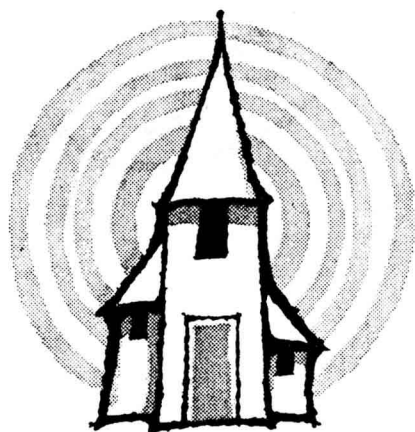
少年少女世界名作全集

孫 悟 空

原作・吳承恩

文・鶴見正夫

絵・水沢 研



主婦の友社版

デザイン 駒宮録郎
装丁

みなさんへ

そんごくうは 中国の『西遊記』と いう お話に でてくる、
サルの名まえです。サルと いても、ただの サルでは あり
ません。石から 生まれた 石サルです。しかも せん人から 習
った じゅつを 使って、大あばれをする スーパー・ザル。
でも、心は とても やさしいのです。さんぞうほうしの おと
もをして、ながい 旅をする 話。さあ、読んでください。

鶴見 正夫
つるみ まさお

もくじ

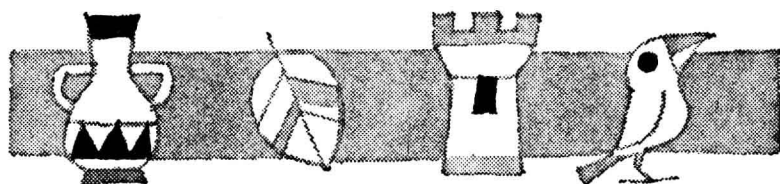
石^{いし}から 生^うまれた サル……………12

きんと 雲^{うん}と によい ぼう……………24

天^{てん}に のぼった ごくう……………44

石^{いし}の ろうやに 入^いれられて……………58

さんぞう ほうしの おとも……………75



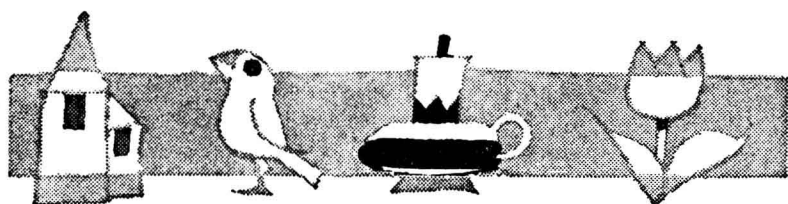
トラに された さんぞうほうし……………97

金^{きん}かくと 銀^{ぎん}かく……………118

火^ひの山^{やま} こえて 天^{てん}じくへ……………136

ことばのまめ知^ちしき……………154

ご両親や先生のための作品解説……………156



このお^{はなし}話にでてくる人^{ひと}びと



そんごくう



さんぞうほうし



おしゃかさま



さごじょう



ちょはっかい

石^{いし}から 生^うまれた サル

むかし むかし ずうっと 大^{おお}むかしの ことです。

天^{てん}と 地^ちが はじめて ひらかれたとき、世界^{せかい}は、東^{ひがし}と 西^{にし}と 南^{みなみ}と

北^{きた}の、四^よつの りく地^ちに わかれて いたそうです。

その 東^{ひがし}の りくの 海^{うみ}の 向^むこうに、ごうらい国^{こく}という 国^{くに}が ありまし

た。そうして、そのまた 海^{うみ}の 向^むこうに、かか山^{さん}という 島^{しま}が ありました。

かか山^{さん}の てっぺんには、十メートルあまりも ある 大^{おお}きな 岩^{いわ}が、

のっかって いました。

ある日^ひ、



ぐわあっ、ばり ばり ばりー！

いきなり ものすごい 音が して、岩が

まっ二つに われました。

すると、われた 岩の 間から、ごろんと、

まるい 石が ころがりできました。

ふしぎなことが 起こりました。やがて そ

の 石も われて、中から 一ぴきの サルが

とびだしました。

石から 生まれた 石ザルは、なかなかの

元気もの。はうことを おぼえた と思ったら、

たちまち、立ちあがり、山の中を 歩きまわ



りました。

かか山^{さん}には、ほかにも たくさん

んのサルが、住^すんで いました。

石ザル^{いし}は、すぐに、みんなと

なかよしに なりました。

暑^{あつ}い、夏^{なつ}の日の^ひこと。

石ザル^{いし}は、なかまたちと いっ

しょに、谷川^{たにがわ}へ いきました。谷^{たに}

川^{がわ}の 上^{うへ}の ほうには、大^{おお}きな

たきが あります。

水^{みづ}が、とびちるように、流^{なが}れ落^おちて います。たきつぼは、水^{みづ}しぶきにかすみながら、ごうごうと うずを まいて います。

「わあっ、すごい！」

サルたちは、たきつぼを 見^みおろしながら、ぶるっと ふるえました。いちばん 年^{とし}うえの サルが、いいました。

「だれか、この たきつぼに とびこんで、中^{なか}を 調^{しら}べて くるものは おらんか。みごと 調^{しら}べて きたら、その ものを、おれたちの 王^{おう}さまに しよう。」

「そうだ、それが いい。大^{だい}さんせい！」

サルたちは、一びきのこらず、手^てを たたきました。

でも、とびこむ ものは、だれも いません。